令和２年 12 月 11 日（金）報告

関西支部　古の奈良　深秋の明日香路、葛城山宿泊ツアー

今年は、恒例の正倉院展が、新型コロナウィルス禍の中で、限定予約の開催となり、一堂に会するのが難しく、支部同窓会を見送るつもりでしたが、古希を迎える年でもあり、少人数で感染予防をしっかりすれば、との安易な判断のもとに挙行しました。

折しも、葛城山ロッジ（国民宿舎）が、Go　To　キャンペーンの対象になるとのことで 10 月初めに予約したものの、治まるかに見えたコロナ災禍が一向に沈静化の兆しが見えず、中止しようかと悩みましたが、怖いもの知らずの筑高魂の面々が、東京から、九州から参集し一泊二日の高齢修学旅行と相成りました。

11 月 27 日(金)　近鉄橿原神宮前駅に 11 時に集まったのは、次のメンバーです。

東京組：高鍋夫妻、福嶋君　九州(神戸)組：本吉君　大阪組：篠原君、安永君

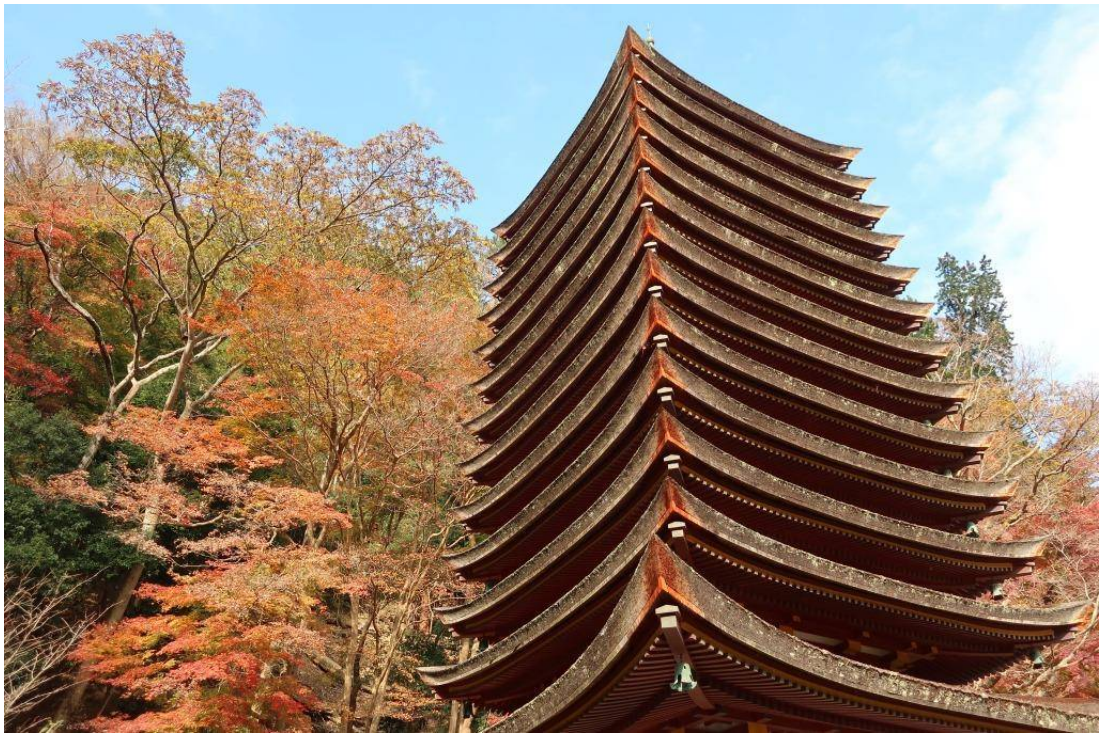
和歌山組：青木さん　そして地元(奈良)組　私　川邊の８人でした。

青木さんの伝手で、予約済みの橿原ロイヤルホテルで豪華ランチをいただき乍ら、再会の団欒でひと時を過ごし、青木さんの高級車と私のポンコツ営業車二台で、桜井市多武峰(とうのみね)談山神社へ向かいます。食事に夢中で、豪華な料理の写真を撮るのを忘れました。

談山神社は、大化の改新発祥の地とされ、中大兄皇子(後の天智天皇)と中臣鎌子(後の藤原鎌足)が、鞍作(蘇我入鹿)の暴逆を阻止し、645 年の大化の改新を行ったとされます。

毎年 4 月 29 日と 11 月 3 日に蹴鞠祭りがあるのですが、今年はコロナ災禍のため、一般参賀は見送られ、また、春は桜、秋は紅葉の名所として有名ですが、閑散としていたようです。

十三重の塔(高さ約 17m)は、678 年に藤原鎌足の追福のために、定慧、不比等が建立したとされる木造十三重の塔としては世界唯一のものです。(1532 年に再建)



御破裂山裾の急峻な道を下ってキトラ古墳に向かいます。途中の明日香村稲渕というところは、日本棚稲田風景百選にも選ばれるところで、かかし祭りやヒガンバナの開花時期には、沢山の観光客で賑わう場所です。残念ながら、時期が遅かったので、昨年の写真を添付します。

キトラ古墳は、1983 年の発掘調査で壁画が発見された 2 段墳丘の古墳です。上段の直径 13.8m、下段の直径 9.4mで、7 世紀後半から 8 世紀初頭の築成ということです。

石室内に亀と虎の画があったと思われたので亀虎(キトラ)と呼ばれたともいわれてますが、発見された壁画は、四神(東：青龍、南：朱雀、西：白虎、北：玄武)に獣頭人身の十二支、天文図、日月でした。

隣接する四神の館(保存館)は、国立なので、駐車場も入館料も無料です。例年ならば、発掘状況の様子が見れるシアターや高松塚で発見された天文図との比較を映すプラネタリウムなどが見れたのですが、いずれもコロナのため休止だったのが残念で憎きは、コロナです。

明日香村の集落を抜けて、甘樫丘(あまかしのおか)に向かいます。福嶋君のレポートにあるように、村全体が保存地区になっているので、建築物には規制がかかっています。

屋根は、陸屋根が禁止され、寄棟ないしは切妻であるとか、外壁は、白または、灰色がかった色、窓は外側に面した一階は、掃き出し窓は設けてはいけないなど・・・。店舗も明日香の美観を損なわないこと。など、など・・・。

車のご当地ナンバー飛鳥は、奈良県でも飛鳥川流域の市町村に限定され、明日香村、桜井市、田原本町、三宅町などでしか飛鳥ナンバーにできません。

奈良市や拙宅のある広陵町は、対象外です。(車庫証明を移してつけている人もいます。)

甘樫丘　この丘のふもとに、蘇我蝦夷、入鹿親子の居宅があったといわれ、標高 148mの展望台からは、眼下に明日香村、近傍に大和三山の畝傍山、耳成山、天乃香久山が眺望でき、北西方面から南西に、京都府、大阪府、和歌山県の境になる生駒金剛国立公園の稜線が遠望できます。

北から、八幡市の岩清水八幡宮に端を発し、生駒山、信貴山、二上山(不遇の皇子大津皇子の墓)、葛城山(今夜の宿営地)、金剛山と連なっています。

ちなみに、あすかには、明日香と飛鳥の二通りの表記があります。斑鳩と鵤も、同じ読み方です。(奈良県と兵庫県にあります。)

日帰り参加の安永君を近鉄飛鳥駅で降ろして、本日の宿泊先　葛城山ロッジへ。

最終のロープウェイの発車時間5時に古いカーナビを頼りに、何とか間に合いました。

こっそり持ち込みの重たい酒瓶を抱えて、山上駅から 15 分の山道を歩くうち、辺りはすでに真っ暗で、奈良盆地の夜景と道路の車のライトが鮮明に望めます。

えっちらおっちら 30 分ほどかかって宿に到着。(足を痛めていた青木さんには、申し訳ありませんでした。日帰りの安永君は、ラッキーだったかも)

宿のお薦めの鴨鍋料理に舌鼓を打ち、有料のアルコールは控えめにして、持ち込みの酒で、部屋飲みに移動しました。酒は、しっかりと忘れなかったのに、つまみを乗車駅の駐車場の車に忘れてしまい、コップ酒ですっかり酩酊し、11 時には行儀よく就寝。

まるで、修学旅行みたい。さすがに枕投げはなかったね。

またまた、料理の写真を撮るのを失念しました。

翌朝は、朝風呂に入り、7 時半に朝食の後、有志で頂上へ。何とか、PL の塔とあべのハルカスは、判別できましたが、明石海峡大橋や四国は霞んでました。

かつらぎ高原ロッジ

標高 956mの山頂に、以前はなかった郵便ポストが設置されてました。

この山は、ツツジが有名で、東北に復興支援に行ってた時に、役場の副町長が、奈良の葛城山のツツジは、見事らしいですね。一度行ってみたいと言われたのを思い出しました。

宿で、料金精算するのに、スマホ操作に苦戦しながらも、クーポンをゲットし、さあ下山という途中で、宿の従業員で愛想のなかった青年が車で追ってきて、計算ミスがあり追加料金を請求され、むっとしましたが、女性陣二人と荷物をロープウェイ乗り場まで乗せることで、タクシー代と割り切りました。

また、車二台に分乗し、斑鳩(いかるが)の里法隆寺へと向かいます。ここも先週までは、コスモスが満開だった。写真をご覧ください。(中宮寺跡のコスモスです。)

土産物屋の駐車場で、無料駐車して(公営駐車場 500 円)、昼食に柿の葉ずしや柿うどんなるものを食して、西の京の唐招提寺へ。

東京組三人を青木さんに託して、西大寺駅で散会となりました。

この後の様子は、ホームページ[今を生きる 第 27 便]投稿の福嶋君レポートをご覧ください。

潜伏期間二週間を過ぎて、参加の皆さんの発症の連絡がないのでほっとしています。

早く、通常の生活に戻れることを祈念して拙い報告を終わります。

文責　　川邊　敏昭